



念じられ 照らされて

能登で生かされて生きる

崖 亮子

元旦に能登半島を始めとする北陸を襲った大震災から丸一年がたちました。自分の生命を守ることと必死な状況が続く中、変わり果てた街の様子にはあまりに凄まじく想像を超えていました。何か悪い夢を見ているのか、など錯覚をしてしまうほどでした。愛する家族や親しい友人の一周忌を迎える人の気持ちはいかにばかりでしょうか。恐怖と深い悲しみの記憶が喚起され、さらに辛い思いをされる人がいます。再スタートを切りたいけれど、その一歩を踏み出せない人がいます。

「能登で生きていく、生きていく」と覚悟を決めてがむしゃらに頑張ってきた矢先の九月二十一日、奥能登豪雨災害がありました。土石流を引き起こし、街中が土砂や流木だらけ、絶望感を味わうには十分すぎる光景が広がっていました。仮設住宅も浸水しました。濁流が人々の生命を奪い、人々の暮らしを飲み込んでいきました。

今なお、全国各地より多くの方々が復旧復興に向け活動しています。二重被災した地域におけるその活動はスローペースではありますが着実に歩みすすめています。又、能登半島地震による災害関連死が直接亡くなった人の数を超えまじつた。過疎化高齢化が急速に進む奥能登地域では、



<略歴>
岐阜県郡上市生まれ。輪島市在住。浄明寺衆徒。チーム輪島として避難所や仮設団地、在宅避難者向けに炊き出しやカフェを提供中。

災害リスクを個人の忍耐や根性で減らし、乗り越えさせることは困難なことなのです。元旦から331日目を迎えた夜、再び震度5弱の地震。その後も頻発する地震に心の動揺と不安は隠せません。「もうここには住むなということか」と落胆する方もおられます。日々の暮らしがたくさんの幸せの集まりであったと改めて気づきました。平穩に暮らしたい、ただそれだけの望みもなかなか叶わないのでしようか。未来の生活を思い描くことができない人がたくさんいます。

私たちが見捨てられるのが怖いのです。忘れ去られていくのが怖いのです。不安だらけなのです。だから、これからも会いに行くのです。つながりの中に生かされている私だから。物理的な復興はもろろんですが、心の復興が忘れ去られてはなりません。

「本願力にあいぬればむなしくすぐる人ぞなき 功徳の宝海みちみちて 煩惱の濁水へだてなし」 (高僧和讃)

苦悩や煩惱の中から、自らの思い計らいを超えた自分自身に目覚める、苦悩した分だけ人として救われていく道が開かれていくのだと思います。寄り添って語り合いたい共に歩んでいきたいと願いながら、これからは炊き出しやカフェなどへ出向く私です。手を合わせて集える場所作りを展開していきます。

どうか、知ってください。能登の今を。私たちは輪が広がります。当初は聞法の間ではなく、傾聴の場、皆の胸の内を吐き出せる場が必要でした。また来るね また来てね 元気でやってよ ありがとね お気をつけて、さようなら言わないうのです。



仮設団地でのカフェ

は「生き残る」から「ここで生きていく」へ苦悩しながらもその中に喜びを見出し、日々もがき続けています。

第43回 真宗公開講座 (参加費500円)

日時 1月16日(木) 午後2時から
会場 高山別院 御坊会館
講師 太田浩史氏 (富山教区大福寺住職)
講題 妙好人の宿

高山二組 婦人聞法会 (会費200円)

日時 2月20日(木) 午後1時から午後3時頃(受付12:30)
会場 高山別院 御坊会館
講師 和田英昭氏 (郡上市照明寺住職)
講題 いただくころ

謹賀新年

高山別院輪番 三島多聞

明けましておめでとうございませう。昨年も皆さまのご協力により、一年の仏事を修めることができました。今年も意義ある「ご坊さま」にしてまいりたく存じます。

昨年、特に観光客の方が沢山みえました。欧米や中国、香港、台湾の人たちも多くみえ、寺宝館、特に中村久子展を見ていかれます。寺宝館に置いてある大書ノートに自国の言葉でコメントがしてあったり、本堂前の賽銭箱には自国の紙幣が入れてありました。日本の観光客や地元の人たちも合掌していかれます。

「ご坊さま」は、皆の広場である。ご坊さま報恩講 昨年の報恩講も各団体各会の方々により、準備が進められ、とどこおりなく勤まりました。

報恩講名物の「ご坊大根汁」も賑わいを見せましたし、十一月二日の大逮夜法要後の、田中旭泉氏・酒井旭粹氏の親子による琵琶演奏では、別院本堂が満堂となりました。人々が息を呑む静けさの中、演奏される曲に沿って語られ、称えられる念仏は、しみじみと胸に入りました。またその日の夜には、曾爾テラワキ氏の種々なる楽器演奏と共に、御伝鈔の上巻が拝読されました。毎年少しずつ演奏と工夫がこらされて新鮮な場面に遭遇しています。

嘉念坊善俊上人顕彰会 嘉念坊善俊上人の七五〇回忌が令和十三年に当ります。これを機に顕彰会の組織を見直し、この法要が勤まるよう

ご坊別院のお取り持ち

別院経常費の値上げについて、かねてより審議を重ね、多くの寺院門徒の賛同を得ました。本年より新しい経常費により運営されます。特に現在の庫裡老朽化を視野に入れ積み立てを始めてまいります。また、環境整備、特に蓮池が雑草のために非常に傷んでおりますので、毎年の夏に咲く「蓮」を皆さまに観賞していただけるように整備してまいります。

いずれにしましても、皆さまの温かい見守りを願っております。

家族で読もう

医療の現場で

「生きること」を学ぶ⑧

岸上 仁

人間であるが故の苦悩(2)

— 苦悩はどこから来るのか

NHK『彼女は安楽死を選んだ』(2019年6月2日放送)を見て、大変心を痛めました。多系統萎縮症と診断された小嶋ミナさんが、スイスに渡って「安楽死」(正しくは医師補助自殺)で亡くなる瞬間まで放送されたのでした。「天井を見ながら毎日過ごし、時々食事を与えられて、時々おむつを替えてもらい、果たしてそういう日々を毎日過ごしていて、それでも生の喜びを感じているのか、生きていたいと思っているのか、自問自答する。」

を見て無常を知った」とは、釈尊が生きる意味を失い疑いに投げ込まれるという問題にぶつかったことだと確かめましたが、まさにその問題です。しばしば安楽死は、本人の意思の問題として語られます。しかし生きる意味を失い、生きられなくなるという問題は、ただ個人的な問題ではなく、そこには人間だから抱えている問題があるのです。その苦悩の中で、すぐに生きる意味などないと決めるのではなく、「自問自答する」と、本当に生きる道はないのかという葛藤が表されています。しかし一方で、同じ患者さんの姿を見て、こうなっているのは生きている意味がないと受けとめられ、そのことが死へと向かわせるのです。ここが私にとって非常に悲しい場面でした。今まで診てきた患者さんは、大変なご苦労をされながらも、しかし一日一日が新しく、大事な時間を過ごされる姿であったと私は受けとめています。

そんな皆さんの人生も否定されたようで、とても悲しかったのです。しかしそれは小嶋さんを責めるということではありません。私自身も問わなければならないことなのです。私は同じ状況になっても、「診てきた患者さんのように最期までのいのちを燃やし尽くしたい」と思っています。しかし、いざ自分がそうなったとき、果たしてそう生きられるだろうか、そう問いつつ続けなければなりません。どこかにこうなつては生きる意味がない、この中に優劣をつけて裁く心があるのではないか。「私はこうあるべきだ」という私の思いは、私の現実のほうを拒絶するのではないか、と。

現実をありのままに生きられず、なぜ苦悩するのか。そう問うことをやめれば、苦悩を確かめることができずに行き詰まってしまう。だから苦しみはどこから来るのかと問いつつ続けた釈尊の思索を確かめたいのです。それが「縁起の観察」です。「老病死の苦悩」はどこから来るのかという問題は、「生」「有」「取」と順に丁寧に確かめられ、一つの帰結として「渴愛」によると言えます。小嶋さんは「私が私であるうちに安楽死をほどこしてください」と言います。私は私としてのいのちを全うしたい。「渴愛」とは「私」が私でありたい」と渴き求めることなのです。喉が渴けば水を飲むぐらいあたりまえに、私は私であることを求めていくのです。しかし「これこそ私である」と信じてきたものが、老病死によって意味を失ったとき、人間は生きていけなくなる。それが老病死の苦悩だということです。

だから苦悩がなくなるといふことは、その渴きが満たされるということなのです。渴きが満たされ、人生を全うした人のことを仏陀といえます。渴きを満たすようないのちの意味はあるのでしょうか。それは一体何なのでしょう。

別院定例法座

午後1時から

3日 三目のご坊

- 1月 講師 三島多聞氏 (別院輪番) 講題 「雪ダルマ目鼻もらいし方を向く」
2月 講師 井野了慧氏 (教務支所書記) 講題 「根源の願い」

28日 親鸞聖人で命日法座

- 1月 講師 内記 洸氏 (往還寺副住職) 講題 「仏を念じる 人と出あう」
2月 講師 日野光洋氏 (桂林教会主管者) 講題 「今、いのちが わたしを生きている」

ひだご坊



URL: https://hidagobo.jp/sermon/

1月1日から2月28日の期間は下記の方々の法話を随時掲載してまいります。

- 北條良樹氏 (了泉寺前住職) 平野邦子氏 (本教寺前坊守)
宮川暁声氏 (暁芳寺住職) 杉野明真氏 (照蓮寺住職)

大谷婦人会 定例法座

- 1月11日(土) ※新年互礼会
2月11日(火)
講師 三島多聞 別院輪番
いずれも午後1時から

あけましておめでとうございます 本年もよろしくお願いたします

お墓の新設 リフォーム クリーニング 墓じまい 各種石工事

石のことなら ご相談・お見積り無料!! 株式会社 奥田石材 OKUDA

0577-33-9601 [本社] 高山市新宮町2498-1(新宮小学校前) 0577-32-1483 [展示場・工場] 高山市国府町上広瀬137-1



6日(月)より初売り 仏壇工芸 ほりお 店内全品10%割引 1月末まで TEL 0577-33-6686

岐阜高山教区発行書籍 『私を照らすひかりの言葉』 酒井義一著 800円

仏壇・仏具 専門店 INORI PLACE 工匠館 0120-88-4891 桐生町2-105

ブックス・アイオー Eat-books 1/9 オープン TEL 0577-341766

慈愛・共なる灯り 高山電気工事株式会社

山都印刷株式会社 自主出版 高山市西之一色町二丁目九〇一八 TEL 0577-331149

久寿玉 KUSUDAMA 平瀬酒造店 TEL 34-0010

あなたの本、作ります。 自分史作品集など 高山市桐生町7-150-3 有限会社リプロ TEL 0577-35-0350

お墓の新設 修繕 明けてお祝いします 高山墓石店 090-7677-4883